

南雄三ツアー

パリ & 北フランス建築視察

2013.11.2-8

旅行主催：名鉄観光サービス(株)

企画協力：マツナガ

2013.11.2-8



新ルーブル美術館 設計 SANAA

LOUVRE-LENS

フランスは、誰がなんと言おうと原発推進で、イギリスとは絶対ライバル、アメリカにも激しく抵抗する姿は「骨のある国」。でも、フランス人はナヨナヨしくみえる。センスじゃ一番、料理じゃイタリヤより高級で、建築屋にとってはコルヴィジェが居て、通になるとボザールの栄光を知っている。アメリカの建築屋はこびジェが居て、通になるとボザールの卒業証書がないために格下からのスタートを強いられた・・・。



BATIMA&INTAERCLIMA

欧州最大の建材展と空調展の両方が一緒にみれるという贅沢。でもあまりにも広くて足が棒になりました。空調展は住宅屋には期待外れでした

近代建築

ギマルルのアール・ヌーボー、パリで初のコンクリート建築をつくったペレのアパート、そしてコルヴィジェのサヴォア邸と歴史散歩...

現代建築

ランスの新ルーブルの他、パリでジャン・ヌーヴェルのアラブ世界研究所、ケ・ブランリ美術館を視察。

パリを「地」にして描く「図」としての建築

イル・ド・パリ知事のオスマンがナポレオン三世の力を利用してつくったPARISは堂々たる美しさ。放射状に伸びた道路の先に、オペラ座のような壮麗な建築が鎮座する。そんな芸術都市に新たにつくられる建築は、どれだけすごいPARISという名のプレッシャーを受けるのだろうか。

金まみれで、しがらみだらけの古典芸術から脱皮して、新しい芸術をつくるアール・ヌーボーは、パリにあったサミエル・ビングの店の名に由来する。ギマルは妖霊にして自然を描くアール・ヌーボーでパリの町を彩った。

最初のコンクリート建築をつくったペレも、ペレを師事して近代建築五原則を提案したコルヴィジェも、建築界を冒瀆するものとして批判され、コルヴィジェは町外れでしか仕事ができなかった。



パリは世界一美しくても、フランスは欧州の中で孤立する。そこで、強いフランスを取り戻すために、ジスカールデスタン、ミッテランによって9つの国家大建築プロジェクトが実行された。オルセー美術館、ピレット科学工業センター、アラブ世界研究所、グラン・ルーブル、新大蔵省、バステューユの第2オペラ座、グラン・アルシュ、ピレット音楽センター、ピレット公園。建築は都市の顔であり、その力は強い。ましてやパリという「地」

があれば「図」としての建築は華やぐ。ふり返る東京に「地」を見つけることができな

い。ベルギーとの国境近く、昔の栄光が嘘のように、衰退する一方のランスに新ルーブルが来た。ルーブル・ランスと呼ばれることは大きく、世界中から人が訪れる。でも、バスは一直線に新ルーブル向かい、ランスの町に寄ることはない。「地」がなくて「図」だけ。わざわざランスにつくった意味がみえない

エコミュゼ

フルミ&トレロン・エコミュゼ

ガラス産業で栄えたトレロンでガラス工場を再建したエコミュゼを視察



仏で一番美しい村

ジェルブロア、リヨン・ラ・フォレ

仏で一番美しい村の二つを視察。ジェルブロアは人口たった100人。



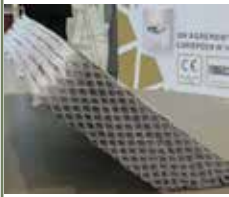
リヨン・ラ・フォレ

技術視察 aereco

湿度感知で省エネを図るデマンド換気のメーカーaereco社を訪問して、工場を見学させていただきました。日本の輸入元マツナガの協力により実現した企画でした。

種類豊富<断熱材>

●ドイツのBAUは木質ボード一色だったが、ここでは種類が豊富だった。



目新しいものはアルミ фольoil+プラの空気層付きシートをハニカムにしたもの。



●ルーバーの展示も目についた。鉄、アルミの他に木の板をルーバーにするものも多かった。



縦・回転→横・スライドへ<窓>

印象的だったのは窓の展示に勢いがあったこと。U値が1.0を切る高断熱窓はここでも当り前のようにあるが、目立ったのは横・スライドの窓が多かったこと。というより完全に欧州の窓は横・スライドにシフトしているといった印象。



家の断熱性が高まり、窓からの日射取得が有利になれば当然のこと。問題は重いことだ。



目立たなかった<住宅用換気>

INTERCLIMAでは、換気先進国フランスなだけに、住宅用の換気システムに期待したが、大型の空調機に押されて目立たなかった。でもそれだけ普及しているということもいえる。



●日本でもお馴染みのardes社は大きなブースで、製品紹介というよりは得意先相手のパフォーマンス



●こんなに小さな気密測定機があった→家の気密性が高まれば、この程度で十分ということか。

省エネ計算ソフトも活気

暖冷房負荷を計算するソフトも沢山あったが、展示をみてもよくわからない。



フランスの省エネ事情<CSBC>

建築研究所 (CSBC) のブース (2階がセミナー・スペース) でレクチャーを受けた。CSTBは半官半民の組織で、リサーチ、研究サポート、工業的な建築評価、都市計画を行う。

→はフランスの省エネ規準で、家庭用エネルギー消費が年々減少している。



aereco

湿気感知で換気量を調整し、留守の時には換気量が減るなど、無駄な換気量を排除することで20~50%も省エネを実現する デマンド換気は日本でも期待の星だ (輸入元: マツナガ)。

デマンド換気は当然あってよいアイデアだが、なぜかaereco独占で、それは湿気感知で自動開閉する単純な機能の特許だから他は手を出せないこともあるし、換気に省エネを求める開発には熱交換という別のルートがあるためだろう。

熱交換に比べて消費電力量は半分、しかもインシヤルも安いデマンドは、湿気感知での省エネが、実生活の中でどれだけ効果があるのかを評価することがむずかしいこともあって、単純に熱交換率で表現できるものとはいかない。

それでも、留守の時は換気は少なくてもよいという考えは当然のことで、それが確実に省エネになっているかどうかは、現実にフランスの集合住宅を中心に、デマンドの吸気口が当たり前になっているという事実が示しているといえるだろう。



オレンジの部分が留守の間の換気ロス

ジェルブロア

フランスで一番美しい村

「一番美しい村」に認定された村は150以上もある。ほんとに小さな村ばかりで、ジェルブロアは人口たった100人。それでも画家シダネルが立ち寄って、惚れ込んで、住み着いてしまった。彼の提案でバラで村を飾ることが始まり、6月のバラ祭には世界中から観光客が来る。でも住人達は静かに住みたいだけ。



新ルーブル

SANAAにとってはラッキー

美術館は「作品」で入ると、「建築」で入るのがあって、後者では外観と内部で興味が分かれる。町中の美術館は外観で目立てないので、内部で勝負になるが、新ルーブルは外観で勝負できるのでSANAAにはラッキー。展示物はさすがにルーブルので一つ一つは素晴らしいが数が足りず、近代まで至らない。大きな倉庫のような空間に並べる展示は、よいような悪いような・・・

期待を裏切った住宅展示場

パリ郊外にある住宅展示場は15軒の規模だが、日曜だということに開いているモデルハウスはたったの3軒。

日本とは展示の目的からして違っているのだろう。モデルハウスはつまらない大屋根の家ばかり。一つだけ高性能住宅があったが、それをアピールすることもない・・・



アミン大聖堂

フランスのゴシック教会の中でも、三大聖堂の一つ。確かに大きい。

